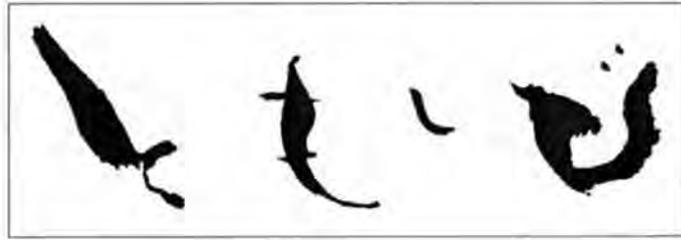


大学婦人協会東京支部

2001. 3

第29号



オタワ国際会議にむけて

I F U W 第一副会長 青木 悦子

横浜、グラーツ、そしてオタワと、横浜会議から早五年もの歳月が経つとは、とても信じられぬ思いであるのは皆様も私も同じことと思いません。東京支部寄贈の色とりどりの傘地で作った手提袋に書類を詰め、第一生命研修センターやバシフィコ国際会議場を汗だくで走り回ったのは、一体何だったのだろうと考えたりもしています。I F U W の会議は横浜

会議と思いましたが、今年、カナダの会員はその同じ意気込みをオタワ会議に賭けているに違いありません。オタワ市は、二十年前に同じカナダで開かれたバンクーバー会場とは対極的な大西洋岸に位置し、ナイアガラの滝など観光地を擁するオンタリオ州にあります。町そのものはむしろ小さい静かな都会といったところ

です。会場となるコングレスホールは近代的なホテルに接続していますが、建物の前には運河が流れ、夏の火照りを癒す安らぎがあります。一方、会場やホテルの反対側にはショッピングアーケードが隣接し、ペットショップから有名ブランド

店、それに銀行までもが勢揃い。さらに、日差しをものともせず戸外に出れば、みずみずしいベリー類や野菜、花々、お菓子やメープルシロップ、その他生活用品を並べたフリーマーケットが広がっています。カナダの会員は、参加者がみな買物に散り、議場が空になるのではないかが心配とか。そのお先棒を担ぐわけではありませんが、環境が魅力的なのは確かです。さりとて会議は議場が空になるほど暇である筈はなく、I F U W にとって今後どのような舵取りが必要か、真剣に討議する場となるのは必ずです。会費やその分担方法、会員数の維持と増加、会名称の妥当性、理事会の構成様式、役員の選出方法等、組織に直接関わる問題をめぐり、すでにこの三年間、ワーキンググループや加盟国の間ではインタネットを通じ意見交換がなされました。思えば、加盟国にとってもそれはすべて自身が内に抱える課題であり、互いの知恵が互いの道を開くという切実さが伝わります。オタワは、おそらくはI F U W にとっても加盟国にとっても、試練と期待の場として長く記憶されるものとなりましょう。

事業報告・予定

6・14 講演「国際協力の現場から」
講師 藤田公郎氏

7・1 〆ともしび〆第28号発行
講演「激動の20世紀・その反省と教訓」

7・4 講師 相馬雪香氏
講演「我が国の福祉」

7・5 寛仁親王殿下(財務主催)
講演(財務と共催)

9・30 「少年事件と少年法」
講師 佐々木知子氏

10・14 J A U W 全国セミナー
於国立婦人教育会館

10・15 講演「IT革命が私達の生活に与える影響」
講師 植田稔氏

11・15 バスツアー(財務主催)
沼津御用邸とアウトレット

11・29 講演「平安時代の出産儀礼」
講師 平間充子氏

12・18 講演「六千人の命を救った人道ピザ」
講師 杉原幸子氏

1・13 新春のつどい(本部主催)
国内奨学金贈呈式(本部と共催)

3・1 〆ともしび〆第29号発行

3・31 第44回通常総会
於アルカディア市ヶ谷

4・1 東京支部総会
記念講演 羽田澄子氏

4・21 古河庭園見学

5・28

第四十四回通常総会を

成功させよう

東京支部長 坂上栄美子

毎年、桜前線の北上とともに、全国総会の季節がやってきます。昨年は奈良、一昨年は岡山、その前は：と、それぞれの支部で心のこもった総会を開いていただきました。

今年の第四十四回通常総会は、九年ぶりに東京支部で開催することになりました。総会は、年一度会員が一堂に会し、JAUWの活動を決める大事な会であるのはもちろんですが、また、懐かしい会員との再会や新しい出会いの生まれる心弾む機会でもあります。

できるだけ質素を心がけながらも、八月のIFUWオタワ総会を控えて、楽しくまた意義ある総会にしたいと、準備を進めています。

懇親会には、NHK初代「歌のおねえさん」の眞理ヨシコさんにご出演いただき、一緒に懐かしい歌を歌うことにしています。懇親会・総会・レクチャー・見学会と、どうぞ皆さんご出席くださり、全国から来られる会員を歓迎してください。会場の「アルカディア市ヶ谷」前の堤の桜も、氣を利かせて早めに咲いてくれるかも知れません。

第44回通常総会日程 (JAUW 2月1日号もご参照ください。)

1 総会関係

月/日	会合	時間	会場
3/31(土)	臨時理事会	13:00-13:30	4F 鳳凰
	評議員会	13:30-14:30	
	支部長懇談会	14:30-17:00	
	懇親会	18:00-20:00	
4/1(日)	総会	9:00-16:00	3F 富士

懇親会には元NHK歌のおねえさんの眞理ヨシコさんが出演します。

2 レクチャー「カナダのタベ」と夕食

4/1 18:00-20:30 4F 鳳凰

「オタワ国際会議にむけて」

- 大川義雄元駐カナダ大使
- 青木裕子 IFUW 第一副会長

3 見学会 4/2 (月)

①バスツアー

9:00ホテルー(徒歩3km)ー皇居
12:00上野「伊豆菜」(昼食)
13:30寛永寺拝観と浦井現龍院住職のお話
15:30上野駅ー16:00東京駅

②カナダ大使館訪問

(10:30-12:00)各自カナダ大使館に集合。大使館の方々ととの交流と映像等によるカナダ紹介。

③大学婦人協会事務所訪問

(10:00-16:00)の間自由にご訪問ください。

二〇〇〇年度全国セミナー報告
(2000・10・14、15)

副支部長 松本 佳子

晩秋の木立に囲まれた、武蔵嵐山の国立婦人教育会館で、二〇〇〇年度全国セミナーが開かれた。参加者は一七四名。テーマは「女性のエンパワーメントー男女共同参画社会の確立をめざしてーその三」。同テーマに取り組む最終年である。

基調講演には、発達心理学の権威 柏木恵子氏を迎え、「女性・男性のそれぞれのエンパワーメント」と題して、最終年にふさわしい、興味深い話をうかがった。もはやエンパワーメントは男女の枠を超え、全人的な問題と力説され、ダイナミックで斬新な講演は、この三年間の、社会の



基調講演中の柏木恵子氏

確実な変化を感じさせた。

シンポジウムのテーマは「エンパワーメントのストラテジー」。山本会長の司会で展開された三人のパネリストの話も、実に興味深いものであった。ことに、足立区教育委員会社会教育主事の高井正氏が、男性としての社会的取り組みについて話されたことは画期的。

研究発表は二日に分かれ、五つのセッションで行われた。静岡支部の「男女共同参画社会基本法条例化の試み」など、若手による斬新な取り組みが目をついた。

最後にセッション報告があり、参加できなかったセッションの内容を知り、全体討議に臨んだ。前年度はUWA総会もあり、会場が大きすぎて心もとない感じがあったが、今回は大きさも程よく、密度が濃かつたように思える。

一日目の夜には懇親会が開かれ、ふだん交流できない他支部の方々と親しく語り、参加者一同楽しい時をすごした。二日間を通して、東京支部は率先して受付、会場係などの任にあたり、前年度の反省をもとに、円滑に仕事をすすめる、セミナーの成功の一助になったように思う。来年度は、一層の実りを期待したい。

講演(2000・7・4)

「激動の二十世紀」

その反省と教訓

講師 相馬 雪香氏

「憲政の神様」とうたわれた政治家尾崎行雄の三女である相馬雪香氏の講演会が、多数の参加者を集めて憲政記念館で行われた。



尾崎行雄は、個人・国・世界を常に同一線上に考えていた偉大な政治家である。その父より、相馬氏は幼少時代から一人の独立した個人として扱われ、女だから男だからというのではなく、一人の人間として何を

性には開かれていなか
つたため、
相馬氏は日本
の普通の
家庭に入
り、女性の
地位の向上
に努めると
いう隠れた
志を抱いて

(小池 朋子)

結婚した。第二次世界大戦中に満州に渡り、終戦直前に四人の子供を連れ帰国した。その後、相馬氏は中国残留孤児となった人々の苛酷な運命を見て、自分の国が方向を間違えたとき一番被害にあうのは力の無い人たちであるということを感じ、それから難民救済活動や国際親善活動に精力を注がれた。

また、尾崎記念財団を通じて、議会制民主主義を広く国民に普及させたり、忌憚なく話し合う場を設けたり、歴史を見直して誤りを正し、良心に従い正しいと信じたことを実行していく風潮を広げていく努力もされている。そして、日本の国民の半分は女性なのだから、女性たちが本気になって結集すれば日本を正しい方向に変えることが出来ると、私たちに強く訴えられた。

米寿というご高齢でありながら、視野を広く世界に持ち、常に日本の将来を考え、使命感を持って行動する相馬氏の凛とした姿勢を目の当たりにして、若い私たちも、もつと政治やこの国の在り方に関心を持ち、日本が世界から信頼される国になるために、一人ひとりが出来ることから行動していかなくてはと思った。

講演(2000・10・25)

「IT革命が私達の生活に与える影響」

与える影響

中小企業診断士 植田 稔氏

ITという文字が新聞に登場しない日のない昨今、若くして独立された氏の講演は、スクリーン用の資料をプリントアウトしたレジュメを中心に興味深く進められた。

や卸売業からの直接の購入、それに對抗しての既存産業の戦略も目まぐるしく、各々に新しい展開が見られる。SOHOと呼ばれる個人通信、個人通信企業も盛んである。③消費生活編では、二〇〇四年の予測ではインターネットにより、自動車、不動産、旅行、書籍等がかなり中抜き状態でビジネス化するであろうとのこと。④コミュニケーション編では、電子メールの利点、注意点が語られた。

1「IT革命とは」では、実は三十年前から始まっていたIT(情報技術)が、この五年間にインターネットの出現により非常に早い速度で進歩し、追い付くことが大変という現状を指して革命と言われているということ。そしてインターネット利用者の爆発的な増加の様子を棒グラフで示された。

地域コミュニケーション、同年代コミュニケーション、チャット等、ホームページの活用も盛んで、インターネット利用者の四十パーセント以上が女性という昨今、まだ利用できない人は、●先入観を持たない、●趣味の世界から入る、●近くの詳しい人に聞く、が成功の三要因とのこと。

2「生活が変わる」では①行政編、②ビジネス編、③消費生活編、④コミュニケーション編とに分け、要領よく説明された。

講演中にも気持ちは既にパソコンに向いた会員の方も多かったよう

①行政編では、各種届出、税金、投票等の電子化が予想され、実際、政府はIT戦略会議で二〇〇五年までの普及を国家目標に決めた、と十一月七日の新聞は報じている。②ビジネス編では、既存流通構造の変化として、小売業を通さず、メーカー

心なものであった。実にタイムリーな講演であったと実感させられた。

(佐々木澄子)



講演 (2000・11・29)

「平安時代の出産儀礼」

講師 平間 充子氏



平安時代といえは、まず華やかな宮廷文化、貴族社会の雅な生活が目につく。ところが今回のタイトルはその平安時代の「出産儀礼」とあって、何とも新鮮な興味を覚えた。

たしかに、どんな時代でも子どもは生まれるものだし、既婚女性にとって出産は生理的必然ともいえる。後嗣ができることは普通の家庭にとって最大の慶びであるが、こと皇統の出産ともなるとまさに宮中における一大祝事ということになる。ただ出産というものが生物的現象であり、ある意味でどろどろした、言ってみれば平安の取りすぎた貴族文化とは対極にあるような要素を含むとも思えるので、当時の貴族社会はこの事象に対し、どのように取り扱ったかという点に、私

などは並ならぬ好奇心を持ったといえる。

いただいた講義内容のプリント及び紫式部日記よりの抜萃と土御門殿想定図は、古典に疎い私には大変ありがたかった。今まで知ることのなかった珍しい宮中儀礼を垣間見たのもおもしろかったが、何より興味深かったのは、新生児を異界からやってきた異人、魔の要素を持つ存在としてイメージしていたという事実。

また、出産儀礼は異人である新生児からこの世とは相容れない部分をそぎ落とし、現世の一員として組入れてゆくためにある、という説である。このことから後産は人々が踏みつける地中に埋め、魔力を封じるとしてといたという。

ここに到って私は出産という生物学的現象に対する平安の人びとの心象およびそれに対処する方法を見たように思った。新生児を異界からの一種のE・Tとしてとらえた当時の人びとの思い。そしてそれへの対処方法としてのさまざまな儀礼、このよ

うな思想の底流を伴う儀礼行事は、時代と共に変わってゆく。その変遷をどなたか検証してくださいたら面白いなと思った次第である。

(若井 綾子)

講演 (2000・12・18)

「六千人の命を救った人道ビザ」

講師 杉原 幸子氏



撫子の花のような繊細さの中に凍りついたものを感じさせる小柄な婦人が会場に入ってこられた。この方があの六千人のユダヤ人に通過ビザを発給した杉原千畝リトアニア日本領事代理、訓令違反を犯しながら領事の権限を最大に使ってユダヤ避難民のリトアニアからの脱出を助けた夫の行動を力強く支えた幸子夫人でいらっしゃるのかと魅入った。

夫人は岩手のご出身で小説家希望だった由。兄上の処へ上京された折、外務省で女性に対して新しい考えを持った杉原氏と会い、間もなく結婚を申し込まれたと少し頬を赤らめ遠くを見詰めながら言われた。

一九三七年、リトアニアに二年間赴任の命令で、家族は小さいが静か

な国へ移った。一九三九年、人の叫び声にカーテンを開けると、領事館の前で大勢の人々が何か必死に叫んでいた。それはポーランドから夜通し歩いてきたユダヤ人たちで、五人

の代表が「ソ連を横切り、日本を通過し、他国へ逃げるためにビザが必要」と申し出て来た。当時、日本はドイツと同盟を結んでおり、立場上困り、外務省へ何度も電報を打ったが返事がなかった。杉原氏はビザを発行すれば捕えられるかもしれないと思いつき、夫人には一切手伝わぬ様子を押し、二人で手書きの作業をし、手が腫れて毎夜シブシブをされたとのこと。

さまざまな困難の末、一九四七年帰国。間もなく外務省から退職の勧告があった。命をかけて全力を使い果して帰国した身に対しての外務省の仕打に言葉も出なかったとのこと。夫人は地球より重い人の命の尊さを説かれた。私自身もB29の爆音と焼夷弾落下の笛のような中での過ごした学生時代の経験から戦争の惨さ愚さは身にしみていてだけに、十代の人々と心について語り合いたいと切望されている夫人のお考えに心から共感した。

(野崎 方子)

講演(2000・9・30)

「少年事件と少年法」

参議院議員 佐々木知子氏

少年による凶悪事件が相次ぎ、少年法の改正論議が盛んな折、時宜にかなった講演会が財務委員会と東京支部の共催で開かれた。

検事としての実績を積み、作家・松木麗としては横溝正史賞の受賞者でもある参議院法務委員会理事の佐々木氏は改正法案を提案する立場から分りやすく説明された。

現行の少年法の理念は国親(パレンスバトリエ)思想である。その保護優先主義に対し、●刑事罰の対象年齢の14歳への引き下げ、●寛刑の見直し、●被害者への配慮などが論点であるとのこと。

そして平成10年以降、事件数は減っているにもかかわらず「いい子」の非行、キレる、ムカつくなど、双方向性のない一方的理由による事件がきわ立ってきている。そういう流れの中で少年法を考え、保護主義、厳罰化の両立でいくのが望ましいという意見であった。

※その後、法案は11月28日衆院本会議で可決、成立。改正少年法は今年四月から施行されることとなりました。

「声のひろば」

特集・少年問題に関して思うこと

「青少年の心の問題」

村田 鈴子

戦後、次第に平和で、高度経済成長の時代一九七〇年代後半から「教育荒廃」が問題になり、エスカレートしてきた。非行、いじめ、暴力、不登校など遂にナイフによる殺傷事件まで起ってくると、青少年の心の荒れや心の病が取り上げられるようになった。

学校は楽しい学びや遊びの場であるのに、今日、不登校の児童・生徒が13万人いるという事実、学校へ行きたいのに行けない子供たちが親と共に悩んでいる姿は、いくら自由な時代でも放っておけない問題である。

知育偏重による序列化、偏差値化、いじめ、少子化による親の過干渉、反対に、働く母親や核家族が原因の放任など、不登校には個人々々の理由が異なる。教師も親も気長に考え解決せねばならない。心を開いて誰とでも話し合うことのできるコミュニケーションも必要であろう。また現在の40人学級を30人学級にすることもやはり大切であると考ええる。

「ボランティア活動の義務化を」

加藤百合子

若者による凶悪犯罪が増えている、とくに動機なき殺人などは我々大人の理解を超え、余計恐怖感にとられる。何故、理由の解らない若者の犯罪、いわゆる「十七歳現象」のようなものが激増しているのか。

私はいつの時代にも若者の暴走はあったと思う。若者の衝動は適切なはけ口がなければ、活火山のようどこかで噴火すると思う。戦争や飢餓のない現在の日本では、若者の情熱を学問やスポーツはもとよりボランティア活動などに誘導して、人間として生きることの意義を自ら悟れるよう大人たちが図ってやらなければと考える。

若いうちは「死」を自分のこととして感知することはあまりなく、歳をとるに従い死を現実のものとして認識するようになる。寿命は有限であることを自覚し命の大切さを知るために、若者に一定期間「死」を肌で感じられるようなボランティア活動に従事させることは意味がある。死期の近い人たちに對するターミナルケアや高齢者の介護などの実習は、若者の人生感を一変させるのではないかと思う。

「とらやんの石」

坂上栄美子

私は山間の農村で生まれ育ちました。毎朝小学生たちは、子どもたちからも「とらやん」と呼ばれていたおじいさんの家に集まって、集団で登校していました。冬には必ず焚火がたかれ、子どもたちはしばらく温まってから出かけました。七、八人はいたでしょうか。

特に寒い日は、焚火の中に拳大の石がくべて焼いてありました。とらやんはそれを新聞紙に包んで一人ひとりに渡してくれます。学校までは子どもの足でゆうに四十分はかかりました。子どもたちの手を温めた石も、学校に着く頃にはおおかた冷めてしまいます。私たちはその石と新聞紙をその辺にばいと捨てました。次の日もやはり子ども数だけ石は温められていました。新聞紙も貴重だった時代のことです。

今でも心の荒んだ時、きまって「とらやん」を思い出します。本当に子どもたちを育てたのは、「とらやん」だったかも知れないと思います。「少年」がマスコミの俎上に上るたびに、今、私は、誰かの「とらやん」になっているだろうか、反省してしまいます。(このテーマ次頁へつづく)

サークル活動状況

①東京漫歩くらぶ

年に三、四回楽しんでいきます。
お気軽にご連絡を。

②英語講座

日時・第一第三金曜日

午前十時～十二時

会場・大久保地域センター三階

講師・松本節也氏(元法政大学教授)

①②ともメンバー募集中です。

連絡先・峯川正子

(☎〇三三六八四一八三〇七)

③楽しい俳句会

日時・第三水曜日

午後一時半～三時半

会場・JAUW事務所会議室

講師・柴崎富子(俳人協会会員)

多少余裕があります。見学にいら

してください。

連絡先・海老原典子

(☎〇三三三三五一五〇五六)

④源氏物語を読む会(Ⅰ)

⑤源氏物語を読む会(Ⅱ)

(Ⅰ)(Ⅱ)とも

会場・JAUW事務所会議室

講師・坂上栄美子

この二講座は満員です。

⑥フラワーデザイン

日時・第三火曜日

午後一時半～三時半

会場・JAUW事務所会議室

講師・河井尚子(マミーフラワー

デザインスクール講師)

数名の会員を募集中です。

連絡先・西尾順子

(☎〇四二一三九七四七四二)

◇ご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

熊切富子氏

一万円

源氏物語を読む会(Ⅰ)

五万円

源氏物語を読む会(Ⅱ)

五万円

楽しい俳句会

一万円

東京漫歩くらぶ

一万円

英語講座

五千元

フラワーデザイン

三万円

◇寄付しました。

留学生相談室

五万円

国内奨学金

十万円

(前頁より)

「本音で語ること」

三浦由紀子

成人の日、「青春メッセージ」(NHK)を視聴するのは楽しい。全国の各地区の代表だけが登壇できる晴れの舞台、応援のたれ幕なども映し出され、会場の熱気が伝わる。ここ数年の内容は以前の弁論大会調とは違つてとても興味深い。

自衛隊の糧食班員、農業経営、難聴の女性ライダー、ストリート清掃のボランティア、ヤンママ、十六歳の漁師志望など。それぞれが声を大きく、自分の仕事を誇り、あるいは悩みを語り、将来の夢と希望を描いてみせる。ヤンママも幼児虐待の過去や、立ち直りのきっかけを大ホールを埋めつくした聴衆の前で語った。共通していえることは、そこに至るきっかけが家族や友やとくに父親と「本音」で話しあったこと。そして今、皆、地に足がついている。居場所をみつけて、その中で夢を描いている。まわりからの「ひとこと」をプラスに生かせるようになっていく。子育ての難しい時期、子の父親に私が一番望んだことは、「本音で話してやってほしい」であった。時すでに遅しと思いつつ、画面にむかつて拍手している私である。

「少年事件雑感」

木村 和子

今日、深刻な社会問題となっている少年事件は、彼等が前途ある若者であり、国の将来の担い手であることを考えるにつけ、暗澹たる思いを禁じ得ない。四月から施行される少年法の改正によつても、少年犯罪が減少する確証はない。

少年の人格形成に最も大切な幼少年期における躾や教育の一層の充実が不可欠であるが、大人社会のあり方にも問題がある。例えば、大きな影響力を持つマスコミが、個人的問題にすぎない金銭、私生活等をセンセーショナルに報道する姿勢などは、未だ思考力の確立していない少年に対する配慮を欠き、真摯に努力することの大切さを失わしめるのではないだろうか。

教育や社会環境の改善には、長い年月と困難が伴うものだが、幼少年期の教育の充実と、大人社会の規範を守る姿勢によつて、その目的が達成されるよう私たちは努力をお願いします。

◇ご投稿ありがとうございました。

編集係



2001年東京支部総会のお知らせ

- 四月二十一日(土) 一時から
- アルカディア市ヶ谷私学会館
- 記念講演 羽田澄子氏

〈講師紹介〉

一九二六年旧満州大連生まれ。本の編集をするつもりで岩波製作所に入社。写真文庫の編集に携わっていくうち、徐々に映画への興味を持つようになる。事実をあたかな目でみつめる記録映画作家。代表作に「薄墨の桜」「早池峰の賦」「またぎ」「安心して老いるために」「歌舞伎役者」片岡仁左衛門―孫右衛門の巻「AKIKO」あるダンサーの肖像」などがある。

支部会員の皆様、多数ご出席ください。会員でない方もどうぞお誘いください。

第27回IFUW総会(オタワ)の日程については、JAUW・2000年11月25日号を参照してください。

全国総会に参加して

埼玉県嵐山町、国立婦人教育会館は、深まりゆく秋の武蔵野の自然と調和した広大な敷地の中にあることに先ず驚かされた。

柏木恵子氏の基調講演は、氏のお人柄が感じられるユーモアあふれる歯切れの良いお話で、会場は時に笑いと活気に包まれていた。シンポジウムでは、実際に現場に身を置くパネリストの方々による、普段はなかなか伺う機会のない生の声に、大変興味深く聞き入った。

一方、各セッションでは研究発表が行なわれたが、そこで繰り広げられた熱い討議には新鮮な感動を覚えた。参加者からの意見、体験が次々と語られ、皆のテーマに対する真摯な想いに圧倒されるのであった。

ただ、その後の全体討議における決議要望書という形にまとめられた報告では、時間の制約もあり、皆の想いが十分に反映されていないのではと感じた。各セッションでの参加者の気迫に満ちたあの熱気が伝わらないのは残念である。しかし、これはセミナーに参加した者だけが味わえる特権なのかもしれない。

(阿部 裕子)

新春のつどい
国内奨学金贈呈式

(2001・1・13)

京王プラザホテルにおいて「新春のつどい」が新世紀の始まりにふさわしく希望に満ちた中で開催された。「私たちが社会で世界と語り合えるよう願いを新たにしましょう」と

会長の挨拶、受賞者の紹介があり、出席者全員の祝福の中で、会長から奨学金が贈呈された。厳しい審査を経て選ばれた受賞者のうち、出席の十名の清々しいスピーチと態度は、明るさと知性に溢れ、二十一世紀の希望と未来を感じた。

大学・大学院の研究において、自らの抱負を社会との繋がりの中でい



かに生かしていくか。障害者の立場からの環境問題。医学と工学の連繋。精神のセルフコントロールでできる教育を倫理学の立場からの研究。NGOに参加して途上国における精神医療のソーシャルワーカーの勉強。聴覚に障害のある受賞者の情熱と未来に対する抱負などなど。会場は感動にあふれた。

早稲田の学生のマジックショーに目をみはり、会員の協力による福引、財務委員会や東京支部のバザーなど、この会を支える人々の協力に大きな意義を感じる一日であった。

(坂井 英子)

※この奨学金の一部として東京支部から十万円を寄付しています。

☆昨年6月14日、「国際協力の現場から」の講演をくださったJIC A前総裁の藤田公郎氏はご退任後、シニアボランティアとしてサモア国に赴かれました。

外務省の後輩たちを気遣い、大使館や領事館の手の届かぬ地域を選び、その国の外相顧問としてご経験を生かされると、新聞は報じておりました。単身でご苦労なことでしよう。自ら実践される行動力には感動させられ、心から応援いたします。

2000年度東京支部新入会員

(2001年2月現在)

氏名	出身校	住所	氏名	出身校	住所
安宅理絵子	東女		浜崎浩子	早大・上智大・聖マリア学院	
糸原園子	大市		原田慶恵	茨城大・大阪大	
上野郁子	奈女		日置恵子	学玉	
大島真理子	同女		藤森寿美恵	日大・東北女大	
大野涼	東理		牧久恵	同女	
奥村友子	聖		松浦愛子	大女	
菊池壽美子	茶		三浦久子	昭女	
黒川花子	大女		宮澤照代	東京・トロン	
神崎晃代	日女		宮本なほ子	日女	
後藤晶子	神女		武藤亜希子	茶院・東京院	
酒葉美智子	神外		室伏きみ子	奈女	
佐々木澄子	東女		矢鋪眞澄	島根	
篠節子	日女		山本佳代子	日女	
清水知子	関学		吉原雅子		
鈴木温子	聖		謹 弔		
鈴木久子	聖		野口敏子	奈女	2000年6月7日
千葉省子	茶		<p style="text-align: right;">編集後記</p>  <p>○「青春メッセージ」の若人たち、「新春のつどい」の受賞者たち、そして新大久保駅の事故での勇気ある犠牲者二名、新世紀の「灯」を点火してくれた人たちです。</p> <p>○「星の王子さま」(サンテグジュペリ)の表紙の星座が六十年ぶりに夜空を飾っていること、ご存知でしたか(朝日夕刊、2000・12・2)。夜の八時から九時頃に向け、真東の四五度ぐらいの高さに見つけた時は歓喜しました。四月ごろまで楽しみ</p>		
堤恭子	実				
時枝裕子	東京				
豊田トモ子	聖				
内藤博子	立教				
永井和子	茶・学院				
中澤嗣子	金城				
中島寿々子	聖				
中野ひな	日女				
中平玲子	昭女				
中村美美子	聖				

編集後記



○「青春メッセージ」の若人たち、「新春のつどい」の受賞者たち、そして新大久保駅の事故での勇気ある犠牲者二名、新世紀の「灯」を点火してくれた人たちです。

○「星の王子さま」(サンテグジュペリ)の表紙の星座が六十年ぶりに夜空を飾っていること、ご存知でしたか(朝日夕刊、2000・12・2)。夜の八時から九時頃に向け、真東の四五度ぐらいの高さに見つけた時は歓喜しました。四月ごろまで楽しみ



☆ ☆ ☆

るそうです。まだ間に合います。夜空を眺めてみませんか。

○ご多忙のなか、こころよく原稿をお書きくださった、青木IFUW第一副会長ほか、諸先輩の皆さま、心よりお礼を申しあげます。

○今回の「特集」については、いろいろご意見があるかと思いますが、次号の「声のひろば」で、さらに意見の交換ができればと期待し、ご投稿をお待ちしております。

事務所内、「ともしび」係宛
お送りください。

○外堀の「さくら」も楽しみな通常総会でお会いしましょう。